

(4) 教育普及事業

1. 事業の基本的な考え方

展示解説、普及活動等を行う教育普及事業は、調査・収集・整理・保存・展示・研究などの諸活動とともに、文学館活動の中で重要な位置を占める。社会教育・学校教育との連携を図りつつ、文学専門の博物館としての特性を生かし、年間を通しての文学講座や講演会、創作教室、文学的に価値ある映画の上映、朗読公演会など、文学について学び、親しむ事業を幅広い世代に向けて行っている。

また、山梨ゆかりの作家や作品の資料を活用した学習プログラムや子ども向け事業の充実を図ることは、郷土への関心を高め、郷土を愛し、郷土に誇りを持つような心情を育むことにつながると考える。

※令和2年2月28日(金)～5月21日(木)の間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため各事業は中止または延期とした。

2. 教育普及活動の内容

(1) 特設展・企画展関連教育普及事業

企画展「まるごと林真理子展」、特設展「飯田龍太展 生誕100年」に関連して、作家・研究者・関係者による講演会や関連講座を行う。特設展・企画展のテーマを詳しく解説し、展示では扱えなかった視点から考察を加えるとともに特設展・企画展そのものへの理解を深められるように実施した。外部講師及び職員による講演会・講座などを通して文学を学ぶ機会を提供した。

- ①外部講師及び職員による講演会・文学講座事業を実施。
- ②関連映画鑑賞会を実施。
- ③関連ワークショップを実施。
- ④チャレンジクイズを作成。

楽しみながら展示の内容が学べる小中学生対象のクイズを作成。「チャレンジクイズ」を通して、文学や作家について学ぶ機会を提供。

※各講演会に関しては、講堂内ソーシャルディスタンス確保のため、定員500名のところを240名の定員で実施した。特設展関連事業のシンポジウムは、パネリストの中西夕紀氏、高柳克弘氏がリモートによる参加となった。

(2) 年間文学講座

年間文学講座は平成2年度から実施している。県民の興味・関心に応じて幅広く学べるよう配慮し、テーマ設定に当たっては講師の専門性を生かすことを心がける。令和2年度は、4名の講師によるリレー形式の講座である「古典文学講座(全5回)」と1名の講師による「近代文学講座(全5回)」の2講座と、当館の学芸員が講師を務める「山梨の文学講座(全2回)」を実施した。

講座1のテーマは「古典文学入門」、講座2のテーマは「作家たちの一癖ある名作～幻想を描く、現実を描く」、講座3は、当館の展示作家を中心に、山梨出身・ゆかりの人物と文学についての講座を実施した。当初、講座1を8回、講座2を8回、講座3を3回予定していたが、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、5・6・7月は中止し、8月から実施した。募集定員はソーシャルディスタンス確保のため50名とした。

(3) 名作映画鑑賞会

文学作品を映画化した名作の数々を上映し、文学と映画の関わりについて考え、作品をより深く理解してもらうための企画である。平成2年から毎年実施している。令和2年度は一般向け映画を5回計画していたが休館に伴い3回実施。講堂内のソーシャルディスタンス確保のため1回目は50名の定員で実施。2、3回目は入館数の緩和により100名の定員で実施した。

(4) 朗読公演会

作品(詩・小説など)の魅力を朗読公演によって鑑賞する一般向けの企画を1回実施する。これは、開館の年から毎年開催、幅広い年齢の聴衆から大変好評を博している。令和2年度は、紺野美沙子朗読座による「ベルベットのうさぎ」を計画したが、台風接近のため中止となった。

(5) 文学創作教室

俳句をはじめ短歌や詩、エッセイなどの創作を通じて、文化活動を推進する。小・中・高校生をはじめ広く県民を対象に、文学創作講座を実施する。令和2年度は、三枝昂之館長と三枝浩樹氏による短歌教室(計4回)を開催した。5、6月に予定していた回は10、11月に延期した。

(6) 山梨の文学解説講座（出前講座）

この講座は、学芸課の職員が、要請された市町村等に関連のある県出身・ゆかりの文学者と作品を紹介する講座である。当館の研修室・講堂等あるいは市町村施設等において、説明・講義した。

(7) 教師のための学習会

県内の小・中・高校・特別支援学校の教職員を対象に秋の企画展と冬の特設展に関わって、文学館職員による説明と観覧を通して、国語教育への活用を図り、令和2年度は2回開催した。

(8) 児童生徒向け事業について

将来の山梨を担うことになる子どもたちに、山梨ゆかりの文学と文学者について学びきっかけを作る。学校教育との連携をより緊密にして、文学を通して豊かな心を育てていく。

① 文学教室

年間を通じ、随時開催する。小学校、中学校、高等学校の要請に応じ、当館が展示する内容について、当館の研修室・講堂等、あるいは各小中学校、高等学校において、説明・講義する。

② ワークショップ

主に子どもを対象とした参加型・体験型の教室を開催し、文学を身近に感じ、文学や文学者に興味を持ってもらう機会とする。令和2年度は、夏の特設展は中止となったが、7月に「富士山×ハーバリウム」を開催した。1月には、「新春ワークショップ 小学生百人一首教室」を実施した。また、冬の特設展関連事業として、2月に大人を対象とした「俳句を始めよう 大人のための初心者俳句ワークショップ」を開催した。

③ 学習ガイド（ジュニアガイドブックと教育普及用資料集）

県出身又はゆかりの文学者、作品について、小中高生の理解を深めるために、文学者、作品についての教育普及資料集を作成している。平成27年は宮沢賢治の、29年度は樋口一葉の教育普及資料を改訂するなど、随時見直しを行っている。

また、常設展示室に展示されている山梨県出身およびゆかりの文学者について、わかりやすく解説したジュニアガイドブックを活用し、子どもたちが文学への興味や関心を持てるようにしている。

④ チャレンジ文学館

常設展を見に来た子どもたちが、ポイントをつかんで楽しく観覧できるように、常設展クイズ「わたしはだあれ？」を実施し活用を図っている。また、芸術の森公園内に、俳句や詩、短歌や童謡、小説やエッセイの一節を書いた24本の柱を立て、「文学の柱追跡散歩」としてクイズを実施する。

⑤ チャレンジクイズ

楽しみながら企画展や特設展の内容が学べる小中学生対象のクイズを作成。「チャレンジクイズ」を通して、文学や作家について学ぶ機会を提供する。

⑥（ジュニア）インターンシップ（就業体験）

子どもたちの職業観・勤労観を、より早い段階から育成するとともに、将来、自らの進路を自分自身で選択できる能力を育てていくことが課題となっている。文学館としても、中・高校・大学生の職場見学や（ジュニア）インターンシップを積極的に受け入れ、若年者の職業意識形成支援に積極的に取り組む。令和2年度の受入れはなかった。

⑦ 学習資料・アウトリーチセットの貸与

館作成資料の一部を学習のために貸与する。要請により、学校をはじめ、生涯学習事業等に対して貸与を行う。令和2年度は、「石川啄木セット」を県内小中高校3校に、飯田蛇笏・龍太のちまちな人形セットを2校に、「村岡花子と『赤毛のアン』の世界セット」を1校に、「宮沢賢治～イトハーブの世界・嘉内（かない）との友情物語～セット」を6校に、「芥川龍之介の夏休みセット」を3校に、そして「文豪ストレイドッグス」を7校に貸し出した。

※各展示室入室の人数制限により、常設展示室、企画(特設)展示室、研修室と3室内に分散し学習プログラムを計画し実施した。

(9) やまなし文学賞について

平成4年4月、山梨県にゆかりの深い樋口一葉の生誕120年を記念して制定された。山梨県の文学振興をはかり、日本文化発展の一助として、小説、研究・評論の2部門が設けられている。令和2年度は小説部門220編、研究・評論部門119編の応募があった。

(10) おうちで文学クイズ

山梨県立文学館ホームページ内に「おうちで文学クイズ」を小中高生向けに作成し掲載。内容は、初級編「俳句・季語当てクイズ」・中級編「文豪作品イントロクイズ」・上級編「小説家クロスワードパズル」と3段階にした。

令和2年度 教育普及事業の実施状況

分類	内容 講師 等	開催日	会場	参加人数	
文学講座 1	「古典文学入門」 都留文科大学教授4名によるリレー式講座	14:00~15:30 90分間	講堂		
	①『徒然草』と作者兼好法師をめぐって 講師:佐藤明浩	8/28(金)			33人
	②「音読してみる平安文学のカタチ」 講師:加藤浩司	9/25(金)			26人
	③「曹操と漢詩」 講師:寺門日出男	10/23(金)			13人
	④「上代文学と絵本①」 講師:鈴木武晴	11/27(金)			16人
	⑤「上代文学と絵本②」 講師:鈴木武晴	12/18(金)			14人
参加者合計				102人	
文学講座 2	「作家たちの一癖ある名作~幻想を描く、現実を描く」 講師:大木志門(東海大学文学部教授)	14:00~15:30 90分間	講堂		
	①「夏目漱石『琴のそら音』—幻想作家時代の漱石」	8/8(土)			24人
	②「泉鏡花『外科室』—愛と生と死と」	9/12(土)			33人
	③「林真理子『女文士』—評伝文学の魅力」	10/17(土)			43人
	④「三島由紀夫『金閣寺』と水上勉『金閣寺炎上』—事件を加工する方法」	11/7(土)			36人
	⑤「井伏鱒二『黒い雨』—書き得ないものを書く」	1/10(日)			23人
参加者合計				159人	
文学講座 3	「林真理子作品の女性たち」 講師:中野和子(学芸員)	14:00~ 70分間 9/22(火)	講堂		
	「山廬を訪れた人々」 講師:保坂雅子(学芸課長)	3/6(土)			37人
参加者合計				66人	
企画展関連事業 「まるごと林真理子展」	オープニングトーク 「まるごと林真理子展に寄せて」 講師:林真理子(作家) 進行:三枝館長	9/11(金)	講堂		
	対談「物語をつむぐ時間」 講師:林真理子(作家) 辻村深月(作家)	9/27(日)			240人
	講演会「本棚のある風景—林書房と私」 講師:林真理子(作家)	11/1(日)			241人
	追加講演会「小説に描いた人々」 講師:林真理子(作家)	11/13(金)			241人
	参加者合計				
特設展関連事業 「飯田龍太展 生誕100年」	講演会「普段着の龍太」 講師:飯田秀實(龍太長男・山廬文化振興会理事長) 進行:高室有子(学芸幹)	1/24(日)	講堂		
	シンポジウム「飯田龍太を語る」 進行:井上康明(俳人) パネリスト:瀧澤和治(俳人) 中西夕紀(俳人) 高柳克弘(俳人)	1/30(土)			65人
参加者合計				83人	
				148人	

文学創作教室	「三枝昂之短歌講座」 全1回 講師:三枝館長	9/5(土)	研修室	24人
	「初心者短歌教室」 全2回 講師:三枝浩樹	10/24(土)	研修室	20人
		11/21(土)	研修室	19人
	「三枝浩樹短歌講座」 全1回 講師:三枝浩樹	12/19(土)	研修室	30人
参加者合計				93人
名作映画鑑賞会	野菊の墓	8/23(日)	講堂	44人
	こころ	10/25(日)	講堂	99人
	青い山脈	11/14(土)	講堂	83人
参加者合計				226人
ワークショップ	「富士山×ハーバリウム」	7/25(土)	研修室	20人
	新春小学生百人一首教室	1/9(土)	研修室	41人
	大人のための初心者俳句ワークショップ	2/28(日)	研修室	22人
参加者合計				83人
チャレンジクイズ	チャレンジ文学館「わたしはだあれ？」			654人
	文学の柱			302人
	企画展チャレンジクイズ			906人
	特設展チャレンジクイズ			162人
参加者合計				2024人
協力会読書会	森嶋外「雁」	5/10(日)中止		
	太宰治「地図」	6/7(日)中止		
	芥川龍之介「地獄変・偷盗」	7/5(日)中止		
	フローベル「ボバリー夫人」	8/2(日)中止		
	やまなし文学賞受賞作 崎浜慎「梵字碑にザリガニ」	9/6(日)		6人
	林真理子「素晴らしき家族旅行」	10/4(日)		4人
	ヘミングウェイ「老人と海」	11/8(日)		4人
	瀬戸内寂聴「女徳」	12/6(日)		5人
	辻村深月「ふちなしのかがみ」	1/24(日)中止		
	山本周五郎「日々平安」	2/7(日)		5人
	芥川受賞作2作(第163回&164回)	3/7(日)		6人
参加者合計				30人
学芸員実習	駒澤大学			1人
参加者合計				1人
山梨の文学解説講座 (講師派遣) (一般・学校)	小学校 3回			
	中学校 3回			
	高等学校 4回			小中高特 583人
	一般 1回			一般 25人
参加者合計				全11回 608人
文学教室	展示解説			小中高特 825人
	小学校 4校			一般 25人
	中学校 11校			
	高等学校 3校			
	一般 1回			
参加者合計				全19回 850人
その他	移動文学館パネル展示			22校 7954人
	朗読講演会「ベルベットのうさぎ」	10/10(土)中止		
	やまなし文学賞(小説220 研究・評論119)			
	やまなし文学賞表彰式	3/14(日)中止		339人
	外部共催研修	7/28(火)中止		
	教師のための学習会	2回		20人
各種団体への広報活動	1回		53人	
参加者合計				8366人

(5) 刊行物の記録

① 山梨県立文学館館報 (A 4版8頁) 寄稿文及び資料翻刻一覧

111号 2020(令和2)年9月10日発行

【寄稿】 企画展「まるごと林真理子展」によせて 林真理子(作家)

【資料翻刻】 木暮理太郎、深田久弥 田部重治宛書簡

112号 2021(令和3)年3月10日発行

【寄稿】 富士山の祭神 清雲俊元(富士山世界文化遺産学術委員会委員)

② 企画展「まるごと林真理子展」図録 寄稿一覧

「まるごと林真理子展」によせて

林真理子って、きみか?!

とびきりピュアなルンルン女子、健在!

林真理子さんの強運のつかみ方

かわいらしい野心

多くの“わたし”の物語

林 真理子

糸井 重里

中瀬ゆかり

中園 ミホ

古市 憲寿

辻村 深月

③ 資料と研究 第二十六輯 令和3年3月30日発行 A 5版92頁

令和2年度企画展「まるごと林真理子展」より

講演会 本棚のある風景—林書房と私(抄録)

常なき日々の歌—2020年の困難はどう詠われたか

飯田蛇笏 高室呉龍宛書簡 翻刻 一九三三～一九三四年

井伏鱒二 野上照代宛書簡 翻刻 一九八五年～一九八六年六月

佐佐木茂索日記「且楽軒記」四 翻刻

中村星湖作成スクラップブック[㊤]その一

太宰治 高田英之助宛書簡 翻刻(付写真版) 一九三九年一月三十一日(推定)

編集後記

林 真理子

三枝 昂之

高室 有子

中野 和子

保坂 雅子

外川豊子・山形敏貴・中島桂子

保坂 雅子

⑥ 閲覧室の運営

① 閲覧室の設置

山梨県立文学館設置及び管理条例と施行規則に基づき、県民・文学館来館者への資料・情報の提供及び調査・研究に対する助言を主な事業として、閲覧室の運営を行っている。

② 閲覧室の利用

ア 利用時間

平日 午前9時～午後7時
(午前9時～午後4時)

土・日・祝日 午前9時～午後6時
(午前9時～午後4時)

※2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため年度当初より閉室していたが、6月23日から利用時間を午後4時まで短縮して再開した。

イ 利用手続

書庫内の資料を利用する場合は、「閲覧カード発行申込書」に必要事項を記入し、「閲覧カード」の交付を受ける。閲覧を希望する資料名を「文学資料等閲覧承認申請書」に記入し、受付に申し込む。

ウ 利用対象

文学資料などの調査・研究、読書を目的とした利用とする。

③ 閲覧室の業務

ア 所蔵資料の閲覧・情報提供

閲覧室では文学作品・文学研究書を中心とした図書、逐次刊行物、県内外文芸誌、新聞などを収集し、利用に供している（一部禁閲覧資料あり）。

また、画像情報システムにより、特殊資料の芥川龍之介資料、樋口一葉の「たけくらべ」再掲本原稿（複製）、中村星湖「少年行」原稿、山崎方代草稿など、実物の閲覧が困難な資料を、画像で閲覧に供している。

2019年2月から、Twitterでの情報発信「こんにちは、中村星湖です。」を開始した。(継続中)

イ 文献検索システムによる書誌情報の提供

所蔵資料（図書、逐次刊行物、特殊資料、マイクロ資料、視聴資料）の書誌情報は、文献検索システムにより、閲覧室内のコンピュータ端末及び当館ホームページからの検索が可能である。

図書は通常の書誌情報に加え、内容細目もデー

タ化し、全集・シリーズに収録されている個々の作品名、作者名からの検索も可能としている。

逐次刊行物については、一部のものは論文名、作品名、執筆者名からの検索も可能である。

ウ 調査・相談業務（レファレンス）

閲覧室に寄せられた調査・相談・照会などの依頼に対しては、文献に基づき、司書、学芸員などが対応している。質問は、電話、文書、FAX、電子メールでも受け付けている。

エ 複写サービス

著作権法に基づき、一部の禁複写資料を除き、所蔵資料の複写サービスを行っている。(有料)

オ 朗読テープ・CDの利用

朗読テープ・CDは文学関係のものを中心に所蔵し、コーナーを設けて利用に供している。

※2020年度はコーナーの利用を休止した。

カ 個人研究室・共同研究室の利用

閲覧室内には個人研究室2室、共同研究室2室が併設されており、個人及びグループでの研究・研修などの利用に供している。(有料)

※2020年度は研究室の利用を休止した。

キ ビデオブースの利用

文学館の紹介及び文学資料の情報を多角的に提供するため、閲覧室にビデオブースを併設し、文学関連の映像資料を提供している。

※2020年度はブースの利用を休止した。

ク 資料紹介

所蔵する資料は、ほとんどが閉架であり、直接来館者の目にふれることは少ない。そこで収蔵されている図書・雑誌の紹介を目的として、テーマを決めて閲覧室内で「資料紹介」を行っている。

ケ 書庫見学

職員が書庫内を案内し、収蔵資料、保管状況などを解説している（年2回開催）。

※2020年度は実施を見送った。

④ 閲覧室の新型コロナウイルス感染拡大防止対策

2020年度は、消毒液・空気清浄機の設置、定期的な除菌作業の実施、閲覧席・書架の一定の間隔の確保、密になるスペースの提供休止、カウンターへのアクリル板の設置等の対策を講じた。

閲覧室事業実施状況

◆「閲覧室資料紹介」

	タイトル	展示期間	備考
1	富士北麓をめぐる文学	2020年8月1日(土)～8月27日(木)	
2	林真理子を読む	2020年9月11日(金)～11月23日(月)	企画展「まるごと林真理子展」連動企画
3	飯田龍太の世界	2021年1月23日(土)～3月9日(火)	特設展「飯田龍太展 生誕100年」連動企画
4	文学に描かれた天災	2021年3月10日(水)～4月4日(日)	全国文学館協議会共同展示参加企画

◆「文学者の誕生日にちなんだ資料紹介」

	対象者	展示期間	備考
1	太田黒克彦(7月1日生まれ)	2020年6月26日(金)～7月16日(木)	
2	望月百合子(9月5日生まれ)	2020年8月28日(金)～9月17日(木)	
3	竹内てるよ(12月21日生まれ)	2020年12月4日(金)～12月24日(木)	
4	武田泰淳(2月12日生まれ)	2021年1月29日(金)～2月18日(木)	
5	深田久弥(3月11日生まれ)	2021年3月5日(金)～3月25日(木)	

※予定していた土橋治重の資料紹介(4月17日～5月8日)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休業により次年度に延期

◆「その他の資料紹介」

	タイトル	展示期間	備考
1	芥川龍之介と河童	2020年7月17日(金)～7月31日(金)	河童忌(芥川の忌日7月24日)にちなんだ展示
2	辻村深月著作紹介	2020年9月27日(日)	「対談 林真理子×辻村深月」にあわせた展示
3	クリスマスのお話	2020年12月4日(金)～12月25日(金)	
4	千支にちなんだ資料紹介「牛」	2021年1月2日(土)～1月11日(月)	

◆ 書庫見学

第1回 2020年6月6日(土)、第2回 2020年11月20日(金・県民の日) 午前、午後各1回の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。



資料紹介「林真理子を読む」



閲覧室のウイルス感染拡大防止対策
(カウンターにアクリル板を設置)

(7) 新型コロナウイルス感染症対応の記録

令和2年度は、前年度末より新型コロナウイルス感染症が全国に拡大し、感染防止対策を余儀なくされた。4月7日(火)から5月21日(木)までの間は、文学館を臨時休館するに至った。

感染症対応の概要は以下のとおりである。

1 基本的な感染症対策

1) 来館者へのお願い

- ・入館前の入館者チェックシートの提出
- ・マスクの着用
- ・発熱、風邪症状、味覚障害など体調に不安のある方、緊急事態宣言の対象区域に在住する方（令和2年度のみ）等は、来館を控えること
- ・入館時の非接触での検温
- ・手洗い、手指消毒の徹底
- ・作品鑑賞時に、他の来館者と1m以上の距離を開けること
- ・壁や展示ケースに触れない

2) 文学館の主な取り組み

- ・館内のソファの一部を撤去
- ・定員に応じた入場制限
- ・鑑賞型展示（接触型展示部分）や体験型展示など、展示内容の一部閉鎖
- ・アルコール消毒液、ハンドソープの設置
- ・ウォーターサーバー等の一部設備の停止
- ・スタッフはマスク着用で対応
- ・総合受付にアクリル板設置

2 各事業の対応

1) 展示室の運営

【常設展】

令和2年2月28日(金)より展示室を休止。開催中の令和元年度「新収蔵品展 作家のエピソード」は、2月27日(木)で終了となった。

4月7日(火)からの全面休館の後、5月22日(金)、常設展を再開した。再開にあたっては、入場者数の制限を設定した上で、以下の対応を行った。

- ・展示室内の椅子の一部を撤去。
- ・樋口一葉「たけくらべ」と芥川龍之介「鼻」の朗読コーナーは、ヘッドフォン・スイッチを利用者が使うため、撤去。
- ・芥川龍之介コーナーの画像視聴コーナー（モニター2台）は、監視員が利用者の要望に応じて操作する方式に変更。

【特設展・企画展】

春の特設展「飯田龍太展 生誕100年」（会期：4月25日(土)～6月21日(日)）は、延期を決定し、令和3年1月23日(土)～3月21日(日)に実施した。このため、この期間に開催を予定していた令和2年度の新収蔵品展は中止した。

夏の特設展「文学の中の富士山：（会期：7月18日(土)～8月23日(日)）は、翌年度の令和3年夏に延期とした。夏の特設展中止に代わる催しとして、特別展示「甲府発の太宰治書簡」コーナーを常設展の一環として設営し、新収蔵の太宰治 高田英之助書簡を公開した。（会期：7月18日(土)～8月23日(日)）

企画展「まるごと林真理子展」（会期：9月11日(金)～11月23日(月・祝)）は、開催前日に行うオープニングセレモニー・レセプションを中止し、林真理子氏のオープニングトークを三枝館長を聞き手として講堂で実施した。

2) 閲覧室の運営

令和2年2月28日(金)、展示室と同時期、閲覧室を休室とした。電話・メールによるレファレンス対応は継続して行った。

6月23日(火)、次のとおり感染防止対策を行った上で、閲覧室を再開した。

- ・空気清浄機、カウンターへのアクリル板、消毒液の設置。定期的な除菌作業の実施。
- ・利用時間の短縮 9:00~16:00に短縮。終了後、閲覧机・閲覧図書等の消毒を実施。
- ・閲覧席・書架の一定の間隔の確保を行い、密になるスペースとなる個人研究室・共同研究室・ビデオブース・マイクロ資料閲覧室の利用を休止。
- ・朗読テープ・CDの視聴コーナーを撤去・中止。
- ・年2回開催している書庫見学は中止。「文学者の誕生日にちなんだ資料紹介 土橋治思」は次年度に延期。

3) 教育普及事業の運営

4月~6月の、講座・ワークショップ・創作教室・講演会・映画会はすべて中止とし、7月以降、順次、ワークショップ・講座・映画会などの普及事業、講師派遣や移動文学館(アウトリーチ)を再開した。

講堂・研修室での催しは、利用者数の制限を設けての実施とし、講師と聴講者の間、或いは、対談・シンポジウムの場合は、講師と講師の間にアクリルパネルを設置した。

なお、緊急事態宣言が発出し、県外からの来県の自粛を求める期間に実施した、年間文学講座2(令和3年1月10日(日)の回)は、講師がリモートで講義を行った。

同じく、令和3年1月30日(土)の飯田龍太展関連事業のシンポジウムは、パネリストの中西夕紀氏、高柳克弘氏は、リモートによる参加となった。

4) ミュージアムショップ(協力会)

- ・令和2年2月27日(木)、ショップを短縮営業に変更。(金土日のみで時間短縮)
- ・ 3月3日(火)、ショップを休業。
- ・ 5月22日(金)、ショップを短縮営業で再開。(7月1日(水)から通常営業)

※休業、短縮営業時はボランティア活動を休止。令和2年度は解説ボランティアによる常設展解説を休止。

5) 貸館

- ・令和2年4月7日(火)、臨時休館に伴い、施設の貸出を停止。
- ・ 6月9日(火)、研修室及び茶室の貸出を定員を変更して再開。7月14日(火)から講堂も同様に再開。
(講堂:500名⇒100名、研修室(3室):100名⇒30名、茶室(全室):80名⇒10名)
- ・ 9月1日(火)、貸館の定員変更。
(講堂:100名⇒250名、研修室(3室):30名⇒45名、茶室(全室):10名⇒15名)

6) 喫茶室

- ・令和2年2月29日(土)、喫茶室を休業。
- ・ 6月2日(火)、喫茶室を再開。

7) その他

- ・4月1日(水)から9月10日(木)までの間、定期観覧券及びミュージアム甲斐in券の販売を停止。
※休館期間(4月7日(火)~5月21日(木))を有効期間に含む上記の券については、有効期間を延長。
- ・4月25日(土)から5月7日(木)までの間、第1駐車場を閉鎖。
- ・7月1日(水)から8月31日(月)までの間、「バイ・ふじのくに」山梨・静岡交流観覧料割引キャンペーンを実施。
- ・文学館協議会、文学館専門委員会は、紙面による開催とした。
- ・やまなし文学賞表彰式は、中止とした。

3 休館中の取り組み

- ・文学館PR動画、「飯田龍太展 生誕100年」PR動画の2本を制作。山梨県のYouTubeチャンネル「やまなしチャンネル」にアップ。文学館HPにリンク。
- ・文学館HPに「バーチャル展示室」「おうちで文学クイズ」を作成、掲載。
- ・延期となった「飯田龍太展 生誕100年」の会期中に、文学館ツイッターに、飯田龍太87句の鑑賞を開始し、4月24日(金)~8月2日(日)まで連続投稿した。
- ・山梨県立美術館・山梨県立文学館・芸術の森公園公式Instagramを6月2日(火)に開設。展示や公園の見どころを紹介。